

募 集 要 項

氏 名：松本和明	研究室：第3研究室棟13研究室
専攻分野：日本経営史・企業家史・地域産業史	
演習テーマ：歴史的＝長期的な視点から、 日本企業・企業家・地域の発展を学ぶ	E-mail：matukazu@cc.kyoto-su.ac.jp

演習内容・主なテキスト

松本の専攻分野＝演習のテーマは、『日本経営史』である。

上記の呼称から、「古臭い」、「実際のビジネスには役立たない」とのイメージを抱くかもしれないが、これは全くの誤解である。「歴史＝実学」との認識・発想をじっくりと育てていくこととしたい。

すなわち、様々な企業・ビジネスのこれまでの発展のプロセスを、歴史的＝長期的視点をもってふりかえることにより、今日の企業・ビジネスの成長要因はさることながら、現状やはらんでいる問題の起源を明らかにすることができ、さらに今後のあり方ないし方向性も展望し得るのである。

本演習では、日本を代表する企業・ビジネスの成長・進化について、起業構想や戦略、組織・マネジメント、製品ないし商品とサービスの開発、販売・マーケティング、資金調達などの経営の諸側面の発展のダイナミズムとともに、革新的な企業家・経営者の諸活動および理念ないし哲学などを、具体的なケースにそくしてふりかえっていくこととする。併せて、全国各地域の事例にも着目したい。

松本は歴史的＝長期的視点のみならず、いわゆる「3現主義」＝現場・現物・現実も重視している。オーソドックスな文献講読に加えて、工場や博物館・資料館などの見学・調査や企業家・経営者へのインタビュー、各種ビジネスコンテストへの参加等の機会を設けるつもりである。

もとより、合宿の実施（2024年度は新潟県新潟市・長岡市にて、25年度も開催予定）やフィールドワーク（24年度は大阪企業家ミュージアム・月桂冠大倉記念館・京都府綾部市、25年度も同様の予定）、神山祭への参加（希望があれば歓迎）、食事会の開催など、活動は出来る限り多彩なものとしたい。

<演習1>

由井常彦『歴史が語る「日本の経営」－その進化と試練－』（PHP研究所、2015年）を輪読する。同書は、江戸時代から現代までの日本の企業・ビジネスの発展のプロセスについて、「人の経営」と「存続の理念」に着目し、その実像を明示したものである。これからの経営への指針となり得る。

<演習2>

東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学〔第3版〕』（有斐閣、2019年）を輪読する。国内外の代表的企業を題材に、経営史ばかりでなく、経営戦略、経営組織、マーケティング、商品・製品開発、ガバナンス、人的資源管理、グローバル化などの基礎を学ぶ。

<演習3>

加藤健太・大石直樹『ケースに学ぶ日本の企業』（有斐閣、2013年）を輪読する。明治時代から現代までの日本を代表する企業を題材に、経営発展と企業成長のダイナミズムを学んでいく。あわせて、企業の見方、つまり調査および分析方法も学んでいくこととする。

松本が編著者を務めた『渋沢栄一がめざした「地域」の持続的成長－人的ネットワークの確立と連携の推進－』（ミネルヴァ書房、2023年）を読んでみたいというゼミ生が数名いたので、解説・勉強会を有志で開催してみた。研究書なので決して読みやすくないが、

自分なりに読み解いてみると、達成感と充実感が得られるものである。希望をまつ！

<演習4>

安部悦生編著『グローバル企業—国際化・グローバル化の歴史的展望』（文眞堂、2017年）を輪読する。規模の大小や業種にとどまらず、企業はグローバル化が不可避である。成長ないし存続に成功している企業には様々なタイプが存在している。よく学んでみたい。

<演習5・6>

まずは、各ゼミ生の就職活動に資するべく、各々の志望ないしエントリー企業の研究をおこなっていく。大学院進学も選択肢となろう。進路決定次第、経営あるいは歴史もしくは地域をテーマとする卒業論文の構想と作成にはいってもらいが、基本的には個別に指導する。他方で、学びの総仕上げとして、田中一弘『先義後利の経営—渋沢栄一が求めた経済士道』（有斐閣、2024年）を味読していく。

教員からの要望

- 1 2019年度から22年度迄、株式会社雪国まいたけ（本社・新潟県南魚沼市）とのコラボで、まいたけやしめじを用いた新メニュー開発およびスーパー・平和堂での販促を展開した。2020年度から京都府綾部市とのコラボで、地域資源や先人の足跡を活かした地域活性化プランを作成している。25年度も継続予定。
2022年度23年度迄、希望者が、ゆきぐに信用組合（旧塩沢信用組合・南魚沼市）でのゼミ単独のインターンシップをおこなった。
2025年度は新潟県内をはじめとする地域企業等とのコラボを広げるべく構想している。ローカルに根差し、地に足をつけた活動に積極的に取り組める学生を望む。
- 2 松本は、新潟県をはじめとする北陸・東北地方の企業や企業家および産業の歴史をこれまで学んできた。同地のみならず、地方ないし地域の企業・産業の歴史や現状、いわゆる「地方創生」や地域活性化の今後のあり方ないし方向性に興味・関心・熱意をもっている学生を歓迎したい。
- 3 2019年度が初めての開講で、25年の入ゼミ生は第7期生となる。まだまだ「ひよっ子」である『松本ゼミナール（自称・まつゼミ）』を先輩たちとともに創っていくとする、気概のある学生の参画を切に希望する。
☆松本のモットーは、「勉強は楽しく、遊びは真面目に」（◎まつかず）である。

履修希望科目

可能な限り、「日本経営史」（春学期・火曜日・2または5時限）を2年次で、「現代日本経営史」（秋学期・火曜日3時限）を3年次で、それぞれ履修されたい。

教員の自己紹介

1970年東京上野生まれ（ルーツは新潟県）。50代を進行中。1999年明治大学大学院経営学研究科博士後期課程中途退学。同年長岡短期大学（新潟県長岡市）専任講師、2003年長岡大学専任講師、12年教授。2019年に北陸トンネル（関ヶ原？）を越えて、人生初となる京都暮らし・勤めを始める。明治大学大学院経営学研究科兼任講師、株式会社第四北越フィナンシャルグループ社外取締役（監査等委員）、新潟日報読者・紙面委員、一般社団法人地域ルネッサンス創造機構シンクタンク・ザ・リバーバンク副理事長、東山油田（史跡・産業遺産）保存会長を兼務。趣味は東京ヤクルトスワローズの応援（40年）と落語・演芸。

ゼミ生からの紹介

今年度は2年次生が21名、3年次生が24名、4年次生が17名在籍している。是非アプローチされたい。